

### 県の放射性物質拡散予測に5つの問題点

#### 畑明郎・元大阪市立大学大学院教授が指摘

九月十四日に開かれた「第二回県地域防災計画の見直しにかかる検討委員会」で、県は大気シミュレーションモデルによる放射性物質拡散予測を初めて公表したが、日本環境学会顧問(前会長)で元大阪市立大学大学院教授の畑明郎氏に同予測の問題点を聞いた。



畑明郎氏

不活性ガスのキセノン133などを除く放射性物質は、超微粒子の形で拡散するので、ガス状の大気汚染物質の拡散モデルを適用することはできない。この意味でも福島原発事故で国が実施した「緊急時迅速放射能影響予測ネットワークシステム(SPEEDI)」による拡散予測を使えるよう県はもっと働きかけるべきだ。

半減期が八日と短いヨウ素131と同五日のキセノン133を予測しているが、福島原発事故の例を見ても、一番問題になるのは半減期が二年と長いセシウム134や、さらに同三十年と長いセシウム137。今回のように、セシウム134や137を予測しないと、あまり意味がない。

放出想定発電所を関西電力美浜原発としたが、滋賀県に最も近くな

おかつ敷地内に活断層があり、福井県で最も古い原発の日本原電・敦賀原発を放出想定発電所とすべきである。

予測地域を屋内退避の内部被曝指標100ミリシーベルト/日以上

に限定せず、それ以下の低線量地域も示すべきである。

### 大津で原発問題講演会

#### 小出裕章、広瀬隆の両氏

9日

原子力の専門家でありながら、原発のリスクや問題点についての研究を精力的に取り組んできた京都大学原子炉実験所の助教、小出裕章氏を招いた原発問題講演会「福島第一原発事故の真実」が九日午後一時半から、大津市民会館で開催される。福島で今何が起きて

力発電の何が問題なのか。今後どのような方向へ進むべきなのか。福島第一原発事故の収束の目処が立たない状況で、周辺環境に放射性物質による汚染が広がる中、原発の危険性を訴え続けてきた小出氏が、分かりやすく講演する。参加費は資料代三百円。参加希望者は事前に主催の滋賀県保健医療協会(☎077-5522-1152)へ申し込む。